

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373000906		
法人名	株式会社ひかりサービス		
事業所名	グループホームジョイア永覚 本館		
所在地	豊田市永覚町欠畑20-1		
自己評価作成日	令和4年8月22日	評価結果市町村受理日	令和5年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2373000906-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2373000906-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年9月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

今年も新型コロナウイルスが蔓延し、利用者様の生活は去年同様変わっています。外出ができない中、季節感を出すために壁に季節に合った飾りをしたり、外食ができないので、お弁当の日、菓子パンの日、バイクング、花火、流しそめん等レクリエーションの充実に取り組みました。地域とのつながり、家族とのつながりが途絶えてしまい電話や手紙、写真立て作成、ガラス越しでの面会を行っています。前の生活に戻れる日まで利用者様の健康を職員と守っていきたくて思っております

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

共用型のデイサービスを実施していることもあり、デイサービスを利用しながらグループホームの利用者との関係を行い、利用者や家族の様々な状況に合わせながら入居につながることもあるため、利用者にとっては、在宅からの生活場所の移行が円滑に実施できる効果にもつながっている。当ホームの建物については、新館ユニットと本館ユニットで建物の構造が異なっていることもあり、ユニットの雰囲気等に合わせた支援が行われている。本館ユニットについては、浴室の改装工事が行われており、利用者や職員の安全にも配慮した対応が行われている。職員研修の取り組みについては、運営法人全体で実施しており、感染症問題が続いていることで職員が集まるのが困難な状況の中でも、リモート方式も活用しながら継続しており、職員の資質向上につなげる取り組みが行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時にあじさい・ジョイアの理念を唱和しています。ユニット理念「今を大切に」も唱和し同じ方向に導くようにしている	運営法人の基本理念を支援の基本に、独自の理念をつくっており、日常的に職員間で理念を共有する取り組みが行われている。職員一人ひとりが目標をつくる取り組みを継続しており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域とのつながりが出来たと思っていたらコロナが蔓延し交流はなくなりました。挨拶は会って時、行事の時に近所に出向いています	感染症問題が続いており、例年は行われている近隣の福祉事業所との交流が中断する等、地域の方とは限られた範囲での交流となっている。感染症の状況も確認しながら中学生の職場体験の受け入れが行われており、現状で可能な交流が行われている。	地域の方との交流が困難な状況が長期化していることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で認知症カフェには参加できていません。運営推進会議も書面にて行っているのでは出来ていません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は書面でやり取りをしています。愛のあるきびしいご意見を頂くこともあります。事業所運営に活かしています。またオンラインで支えあいネットワークの研修に参加し意見交換をしています	会議は書面による実施が続いており、関係者に書面を通じた運営状況等の報告が行われている。書面には、利用者のホームでの暮らしぶりを細かく記載しており、ホームへの理解を深めてもらう働きかけが行われている。	会議についても、長期にわたり書面による実施となっていることもあるため、今後の様々な状況をみながら、会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市役所の方へは、分からない事、困っている事を聞いたり、相談したり、事故報告の時など、助言を頂いている	市内の介護事業所が集まる連絡会や研修会等が開催される際に参加する機会をつくり、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、地域包括支援センターとも、リモート方式で地域ケア会議に参加する等の交流が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	本館は現在玄関の施錠をしていますが1日2回以上散歩の機会をもうけています。3ヶ月に1回身体拘束未実施減算会議を開催し職員は、やっちはいけない事と認識しております。	身体拘束を行わない方針で支援が行われているが、ユニットで建物の構造が異なることで、ユニット毎に対応を検討している。身体拘束に関する定期的な検討を利用者毎に行っている他にも、職員研修の機会をつくり、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎年、事業所全体で虐待・不適切ケアの聞き取りを行っている。不適切ケアの段階で指導し代表に書面で報告して。研修も全員が参加し職員全体で把握し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	新館で1名なごみの会の方が入ってみえる。この方は身寄りがいない為身元保証をしてもらっている。本館では現在ありません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間をかけて説明し理解を得ている。法改正の時なども十分に説明し同意書も頂いている。家族様の質問やご不明な点にも都度対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月に2回家族様に連絡を入れて情報交換を行っている。また会社から家族様にアンケートを実施し意見を頂きホーム運営に反映している	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、様々な行事を通じた家族との交流の機会がつけられている。運営法人でアンケート活動を行っており、家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月のホーム便りには利用者毎の報告も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見にも耳を傾けている。常勤職員は職場の改善などを毎月あげていて代表者も目を通していている。いい面が職場に反映できている。毎月の会議の時にも意見は出ていて事務局に議事録を提出している。	毎月の会議や日常的な職員間での情報交換等を通じて、管理者が把握した職員からの意見等を運営法人に報告し、ホームの運営への反映につなげている。また、管理者による職員面談の取り組みやメンター(教育、助言等)を配置する取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい職場をめざしている。リフレッシュ休暇などがあり職場環境は以前より改善されている。給料面も個々の年齢・実績・就労期間等を加味してくれている。職員も意見を出しやすい環境にある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者やリーダーは、会社の研修に参加し現場に反映している。職員は年6回の研修カリキュラムがあり参加しケア向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現在はコロナ禍で交流はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	実地調査の時に本人の要望や日常生活習慣、趣味などを聞いて不安のない生活が送れるよう努めている、入居後でもその都度ご家族様から情報を頂きよい関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の困っている事や不安に思っている事などをお聞きしサービス向上につなげ初期プランに組み込んでいる。またこまめに連絡を取り合いよい関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時に求めているニーズに対応できるように年2回アセスメントを取りその時々で対応もしている。特養などの申し込みも提案している。本館は通所も行っているので、グループホームの申し込みなど受け付けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常にご利用者様と生活をしている事を念頭におき孤立する事なく良い関係を構築している。食事作りや配膳、盛り付けなども一緒にいき共有する部分を多くしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の手紙でご利用者様の状況をご家族様にお伝えしている。月2回の電話の時に家族様と利用者様のケアについて話し合いをもっている。認知症の勉強会の中で家族様と利用者様の関係を閉ざす事のないように伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナ禍で面会も制限がありますが、数名はガラス越しで面会を続けている	現状、外部の方との交流が困難な状況でもあるが、利用者の中には入居前からの生活習慣を継続する等、可能な範囲で関係継続につながる支援が行われている。また、家族との外出についても、医療機関への受診等を通じて、可能な範囲で行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士、仲良くされている方は近くの席にしているが摩擦が起きる時もあるので、素早く介入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	現在は契約終了の方との交流や相談支援はできていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様個々の思いは把握し以降に添えるものは実施している。利用者様が変わりできるようにってきている。	職員間で利用者を担当する取り組みや個人別の支援経過ノートも活用しながら、利用者や家族に関する意向等を把握し、職員間での共有につなげている。また、センター方式を活用したアセスメントも実施しながら、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴や利用していたサービス等をアセスメントの時にご家族様に聞き情報として把握に努めている。職員全員がアセスメントを回覧する事で把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	コロナ禍で利用者様の認知症状にも変化があり今にその日に着目してケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日頃の関わりの中から利用者様の情報は共有するように努めている。また電話のときに家族様からの要望も聞きプランに挙げている。永覚ではセンター方式のシートを使い介護計画に反映している。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的な介護計画に関するチェック記録を残したり、担当職員も関わりながら毎月のモニタリングを実施しており、定期的な見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	支援経過記録を個別に作り、小さな事も記入するようになっている。職員は出勤時に支援経過記録をみて情報を把握しケアに活かしている。ケアプラン実施記録に毎月のモニタリングを記入し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その都度新たな課題について対応できるように取り組んでいる。状態が変わった方は更新を行い介護計画を修正している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の活用も現在ではできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医や看護師とは、常に連携を図り適切に医療が受けられるように努めている。主治医以外の受診は、家族様にお願ひし行ってもらっている。必要に応じて手紙を書いたり同行して状態が伝わるようにしている。	協力医との定期的及び随時の医療面での連携が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診については、家族による対応の他、状況にも合わせた職員による支援も行われている。また、看護師が勤務する体制がつけられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	経過支援記録を中心に介護職員が持っている情報は看護師とも共有し受診につなげている。看護師からのアドバイスも介護現場に活かしている。管理者もできるだけ看護師の出勤日に日にちを合わせて伝えるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良時には、主治医に相談し早期に適切な医療が受けられるよう入院し、また退院に向けても病院関係者ソーシャルワーカーと密に連携を取り早期退院につなげている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りや重度化した場合の事は契約時に説明している。永覚で看取りと言われた方が2名見える為家族様と話しあい納得し同意書を頂いた。状態が変化した場合等は主治医や看護師に指示を仰いでいる	身体状態の重い方も生活を継続できるように、看取り支援も行われており、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、看取り支援以外にも特養や有料老人ホーム等への移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	以前、消防の方にきて頂き職員全員が参加し救命蘇生法を学習したが、職員が変わった事もあり10月に救命蘇生法の研修を予定している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	水害、火災、地震の訓練を2回づつ行っている、夜間を想定した訓練のシュミレーションは夜勤に従事する職員に管理者から伝えている、地域との関係は今ではできていない。	年2回の避難訓練を実施しており、火災、地震、水害を想定した取り組みが行われている。水害の際には、本館ユニットから新館ユニットに避難する確認が行われている。また、ホーム内に備蓄品を確保している他にも、非常時の発電機を設置している。	新館については、建物の構造上の制約もあり、利用者の避難誘導に困難が予測される。近隣の方との交流が困難になっている状況であるが、可能な範囲で、近隣の方との協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様に対しての声かけは1人1人の尊厳やプライバシーに配慮している。研修で尊厳については説明し十分にわかっていると思います。	職員による利用者への対応や言葉遣い等については、毎日の申し送りの際に行っている理念の振り返りや管理者からの注意喚起が行われている。また、接遇に関する職員研修については、運営法人全体で行われており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定を尊重している。ご自分の意見を自由に言える環境作りを行って自己決定を促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様優先は、頭ではわかっているが、業務優先になっている事もある。利用者様のご希望でその日に突然レクを開催する事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝は全員分の顔拭きタオルを用意し、職員が髪の毛を整え、整容に努めている。服に対してのこだわりが強い方もみえるので意向をお聞きしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しい物になるようレク食やお弁当、パン食等好みをお聞きしメニューに反映している。個々での役割をして頂いている。今は出来る方は増えたので個々にお手伝いをお願いしている。	メニューについては、管理者が基本的なメニューをつくり、利用者の好みや嗜好等にも配慮しながら調理が行われている。おやつ作りや季節等にも合わせた食事作りも行われている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェックが必要な方はおこなっている。コーヒーが好きな方が多い為10時と15時はコーヒーも含め選んでもらっている。終末期で栄養の足りていない方は主治医よりエンシュアが出ている。食事量の把握が出来ていない方が1名みえる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、個々に合った口腔ケアをおこなっている。ガーゼで拭かせて頂いている方もみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	1人1人の排泄パターンを把握し時間の誘導だったり個人で行かれる方も確認をさせて頂いている。	利用者全員の排泄記録を残し、排泄表や個人別の支援経過ノート等も活用しながら、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、排泄状態の維持、改善につなげている。また、看護師による排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、牛乳を飲んで頂いている。またフルーツやヨーグルトをメニューに多く取り入れている。便秘の方は下剤を服用されている。便秘体操を行っていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	2人介助の方もその方の体調にあわせて入浴して頂いている。毎日入りたい希望の方がみえるので、希望に添えない事もあり苦慮している。また看取りの方もシャワー浴を行い体に負担のないようにし皮膚が弱い方は手で体を洗っている	入浴の準備を毎日行い、時間も午前と午後に対応し、利用者の希望等にも配慮しながら週2～3回の入浴ができるように支援が行われている。利用者の身体状態に合わせた入浴の支援も行われている。また、本館ユニットの浴室の改装工事を実施しており、環境面での改善が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本館は、ご自分のタイミングで居室に行かれる方が多い。昼間も休まれる環境を作って体に負担のないよう努めている。夜間おきて来られる方もみえるので都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期に処方される物以外は理解出来ない。誰がどんな薬を服用しているか少しでも把握できるといいと思う。服用できない場合は主治医に相談して内服形態を変えてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ禍の中で楽しみを見つけ日々過ごして頂けるよう努めている。気分転換に1日2回は外に出かけている。嗜好品は家族様をお願いして持ってきてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナ禍もあり出来ていないが1日2回の散歩とホーム内で楽しめるレクを工夫をしている。毎年の行事も復活している。	現状の感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっているが、季節等を見ながらホーム周辺を散歩する等の機会がつけられている。外出行事については、感染症の状況もみながら少人数で公園等に外出する取り組みが行われている。	感染症の状況もみながら、徐々に外出の機会を増やしているが、今後の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は利用者様がお金を持っての外出はない。コロナが落ち着いたら以前のように買い物に行きたいと思っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族様に電話をかけてほしいと言われる方には、こちらからかけて話しをして頂いている。手紙も家族様から届くので本人に渡し楽しみにされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング等共有空間は季節感を出している。床の汚れが取れなかったので夜勤者と管理者でスポンジで磨いた。トイレや風呂はわかりやすく掲示ソファの配置にも気を配っている。光を嫌がられる方がみえるのでカーテンでもめてしまう事が課題	当ホームの建物については、ユニットにより生活環境が異なっていることが特徴でもあり、ホームの行事等は、リビングが広い本館ユニットで行われている。新館ユニットについては、2階のスペースに共用空間があり、利用者が一人で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った方同士がソファに座り会話をされていたり、少し離れたところでつろげる空間を作りパーティションも使用したり畳スペースも活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族様が、入居の時にもってきて下さるが、家族様の好みの物が増えてきている。最近では小物をたくさん持って来られるので把握が難しい	居室についても、ユニットにより居室内の広さや設置されている設備(洗面台)等が異なっている。居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等が持ち込まれており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動きやすい動線を考えフロアを安全に歩行できるようにしている。ホーム内の表示も大きくわかりやすくしている。居室の名札も新しくして見やすくした。		